

## 外国旅行のための英語表現：

特に英語圏の国への旅行の際の英語表現上の諸問題

立 山 昇

(1997年5月21日受理)

### 1

外国旅行の際に、まず問題になるのが言葉の問題である。筆者は約10回ほど主にアメリカへ行って来たが、英語教師として約20年間、学生に英語を教えてきたにもかかわらず、外国では解らないことが多いというのが、正直なところである。言葉というものは誠にすばらしいものだが、また同時に、複雑で、厄介で、時には、誤解さえ生み出すことすらあり、それが外国語となると、互いの意志疎通をはかるのはとても困難である。しかし、外国へ行くと日本語を話す人はほんの少数であり、中には、日本人でありながら、英語しか話せない人もいて知ってびっくりしたりして、外国へ行くと驚くことが多い。英語教師でも大変であるから、英語には全くの素人の人は、さらに大変であろう。そこで、この論考では、日本人が英語圏の国（アメリカ、イギリスなど）へ旅行へ行く時の英語表現上の諸問題について述べてみたい。

なお、旅行英語表現の研究については、おそどまさこ、『英会話100場面』（本論文の最後の文献欄参照）は日本人が外国旅行に行く際の英会話を豊富に載せ、かつ解説を加えており、優れた著書である。また、実用英語については、森喬伸、『英語を実用的に使う本』（本論文の最後の文献欄参照）は英語表現を実用面から論じた優れた著書である。また、松田裕、『米語の衝撃—辞書の嘘』（本論文の最後の文献欄参照）はアメリカ英語表現を実際の表現という観点から述べた恐らく長年にわたる研究をまとめた労作である。以上のような優れた研究が日本ではなされてきているが、私のこの論考は、英語表現を実際に日本人が英語圏の国を旅行する際に使う、あるいは、相手の外国人から、話しかけられるだろうような英語表現をとりあげた。つまり、英語表現を口語の観点からのみ、しかも一定の場を限定して、論じてみたい。

## 2

まず、出発の際の飛行機の搭乗手続きは、日本語で出来るので、問題はないであろう。最初に、英語を使うのは、スチュワーデスさんたち乗組員や搭乗口にいる係の人に対してであろう。それは簡単である、Hello.と言えよ。この hello という言葉は大変便利である。朝、昼、夜と、いつの間でも使える。こんな便利な言葉は日本語には、見あたらない。したがって、日本語に訳するのは、その場によって、違ってくる、ある時は、「こんにちは」、またある時は、「おはよう」、またある時には、「今晚は」でもある。ある辞書<sup>(1)</sup>には、「やあ」と「こんにちは」の二つの訳を載せている。さて、次に、飛行機の中で、スチュワーデスさんやスチュワードさんとの会話になる。その例を次に挙げよう。

Which do you like better, fish or meat?/I like meat./I like fish./Meat, please./Fish, please./I want fish./I want meat./I don't want the meal./I don't want to eat anything./I don't like to have the meal./I don't want to eat./No, thank you./Now I am full, so I don't need any food. (例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げた文献を使い、修正し、做った。)

スチュワーデスさんたちがワゴンで食事を運んでくる。その食事が二種類ある時、「fish と meat のうちどちらを食べたいですか。」と聞かれる場合がある。それに対する答えは、魚なら「魚」、肉なら「肉」と、答えるのである。Meat, please./Fish, please.のように、答える場合、please を付けるべきだ。そのほうが丁寧であるからだ。また、どちらも食べたくない場合、No, thank you.で意味は充分通じる。しかし、これだけだと、ややぶっきらぼうである。No, thank you. I don't want to eat now./No, thank you. I don't want to have the meal./No, thank you. I am full now. (例文は筆者。)のように、断る理由を簡潔に言うべきである。

スチュワーデスさんたちとの会話の中でよく使われるのが、「何か飲み物を持って来てください。」と頼む表現である。幾つかのよく使われる例文を挙げてみよう。

Excuse me. I'd like to have a beer./Excuse me. I'd like to drink a Japanese beer./Which beer do you like, a Korean beer or an American beer?/I like an American beer./Excuse me. I want to take a coffee./Excuse me. I want to drink a glass of wine./Which do you like better, white wine or red?<sup>(2)</sup>/Excuse

me. I want to drink a glass of white wine. ((2)以外の例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後の文献を使い、修正し、倣った。)

相手の人に何かものを頼む時は、必ず、Excuse me.を前か後に付けるべきである。「すみませんが」という日本語に当たるこの言葉を日本人は付けるだけの英語表現についての余裕がないのかもしれないが、易しい表現なので、言えるように、練習する必要がある。

それから、ここでは、「～してください。」と頼むのに、「私は～したい。」などのような表現を例示したが、しかしもっときちんとした頼み方は次のような言い方がある。

Excuse me. Would you bring me a coffee?/ Excuse me. Could you bring me a red wine?/Excuse me. Can I have a beer?/Excuse me. A glass of whisky with ice and water, please?/Excuse me. Give me some water, please.<sup>(3)</sup>/Excuse me. Can I drink an orange juice? ((3)以外の例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げた文献を使って、修正し、倣った。)

Would you～?を使うのは最も丁寧な表現である。次には、Could you～?が丁寧であり、その次が、Can you～?を使う表現である。Can I drink an orange juice?のような言い方は、相手には意味は通じるが、誤解される恐れもある。「私はオレンジジュースを飲むことができますか。」と言う意味だから、「私は私が持って来ている自分のジュースをここで飲んでもいいのですか。」と、相手に許可を求めているとも受け取られかねないので、注意して使うべきだろう。

### 3

さて、次に、隣に座っている人が外国人ならば、Hello.と言って、まず最初に挨拶する。その他、How do you do?/How are you?という挨拶表現もある。このHow are you?という表現も、便利な表現である。ある辞書<sup>(4)</sup>によると、「こんにちわ。」「お元気ですか。」「初めまして。」の三つの訳が載っている。しかし、この表現も、「こんばんわ。」の意味の場合もあるし、挨拶の表現としては時間に関係なく用いることが出来て、とても便利な英語表現である。

次に、隣の外国人と交わすであろう会話表現のを幾つかを例示してみよう。

Where do you come from?/Where are you from?/Where are you living?/Are you Japanese?/Are you American?/Are you Japanese or Korean?/What part of Japan do you come from?/What part of Japan are you from?/In what city are you living?/I come from Fukuoka./I am from Nagasaki./I'm living in Fukuoka./I live in Kitakyushu./I'm Japanese./I'm American./I'm Korean./I come from the southwestern part of Japan./I'm from the southern part of Japan. (例文は筆者。ただし、本論文の最後に掲げてある文献を、主として、使い、修正し、倣った。)

「私は日本人です。」と言いたい時は、I am Japanese.が一般的に用いられていると思う。I am a Japanese.も間違いではないが、「日本人の」という意味で Japanese を形容詞で使う場合が多いようだ。ある辞書<sup>(5)</sup>にも、そのような趣旨について書いている。その質問の後で、外国人はよく、What part of Japan do you come from?と聞いてくる場合がある。それに対して、Fukuoka あるいは Kumamoto などと言って答えても、アメリカ人やイギリス人はそれらの町の名前を知らない人が多い。そこで、彼らは、次に、「(その町は知らないのだが、)日本の中のどの地域からあなたは来たのですか。」と聞いてくるのである。

さて、次に、あなたの隣の外国人は、あなたに次のように聞いてくるだろう。それで、あなたは、それに対して、また答えるであろうような英語表現をいくつか例示してみよう。

Where are you going?/Where do you go?/What is the purpose of your travel?/For what are you travelling?/Are you going to America for sightseeing?/Is it for sightseeing?/Are you traveling on business?/I'm going to San Francisco for sightseeing./I'd like to go sightseeing in York./The purpose of my travel is to enjoy myself during the vacation. (例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使い、修正し、倣った。)

Are you going to America for sightseeing?の場合、Are you going to go to America for sightseeing?とは言わない。ここの be going は「今まきに行くところ」という意味で、「行くつもり」の意、ではない。「行くつもり」を表わしたければ、I intend to go を使うべきだ。あるいは、I'm planning to go または、I plan going 又は I am planning on going と言うべきだろう。<sup>(6)</sup>

次に、お互いに相手の職業を聞かろう。そういう場合の英語表現を書いてみよう。

What do you do?/What is your profession?/What is your job?/Where are you working?/What company are you working for?/What grade are you in?/What are you majoring in?/What is your major?/What is your speciality?/I'm a college student./I'm an office worker./I'm working for a Japanese bank./I'm majoring in American literature./My major is English./My speciality is American studies. (例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げた文献を用いて、修正し、做った。)

What do you do?は「あなたの職業は何ですか。」という意味である。work for～は「～で働く」の意味である。従って、work for a bank は「銀行で働く」という意味になる。「ビジネスマン」という英語は office worker である。office という言葉はアメリカでは「会社」という意味で一般的に使われる。小学校の場合、first grader, second grader, third grader というのが、「一年生」, 「二年生」, 「三年生」という表現である。major は「専攻」, speciality は「専門」である。その他、趣味のこと、何のためにあなたは旅行しているのか、あるいは、いつまで、どこに行くのか、あるいは、自分の町と、自分の国のこと、自分の家族のこと、自分の仕事の内容などが、一般に初対面の人との間で交わされる話題であろう。よく言われることだが、相手の年齢を聞いたたり、宗教を聞いたたり、政治問題を取り上げない方がよい。日本人同士だと、かなり、そういうことを話す場合もあろうが、初対面の外国人と、そういったデリケートな問題は話さない方がよい。もちろん、親しい間柄の外国人とは、そういったことを話合ってもよい、のはもちろんである。

それから、日本人が苦手なことは、次の、3つの事だと思う。まず第一は、Thank you.ということである。外国へ行くと、なんども、人に親切にしてもらう。道を教えてもらう、乗り物の乗り方を教えてもらう、その他、数え切れないほど多くの人に親切にしてもらう。そういう時に、忘れてならないのは、Thank you.と言って、感謝の気持ちを表わすこと、である。第二に、Excuse me.と I am sorry.または Sorry.を言うことである。日本人は、乗り物の中で、体が相手に触れても、「すみません。」を言わない人が多い。アメリカ人の場合は、そういう場合は、「すみません。」と言わない人は、まれである。Excuse me.と Sorry.と I am sorry.との違いは微妙で、英語の得意でない人には、難しいかもしれないが、意味の重さは、I am sorry.が一番重い。第三は、yes と no とをはっきりと、言うことである。ある時、私は、San Francisco でタ

クシーに乗った。私が、「私は、以前 Fresno に1年間住んでいたことがある。」と言ったら、彼は、I don't like Fresno.と、まず、言った、そして、その理由を、言ってくれたが、そう聞いて私は、まったく、いやな気分にはならなかった。なるほど、アメリカの人は自分の意見をはっきり言うな、と思って、むしろ好感が持てた。第四は、自分の英語が、通じない時は、身ぶり、手振り、ないしは、文字に書く、絵に描く、などしたらよい。また英語が、得意でない人は、メモ帳とペンを常に持ち歩くべきである。和英辞典、それも、旅行用の、handy なものを持ち歩き、その辞書の文字を示すという方法もある。

## 4

さて、次に相手の外国人の言うことが解らない場合の表現について述べよう。外国人の言っていることが解らない場合は大きく分けて2つであろう。第一に、相手の言っていることは正しい英語なのだが、自分の聞く能力がない場合。第二に、相手が間違えた英語を言っていたり、あるいは、発音が悪い、あるいは、声が小さいなどで、こちら側に理解できない場合。私は、カリフォルニアのある店で I cannot hear you. (私はあなたの言っている事を聞き取る事が出来ません。)と言ったのだが、相手の女性の店員さんが、「あなたは耳の病気に掛かっているのですか?」と言った。私は「そうではなくて、私は、あなたの英語が理解できないのだ。」と言って、やっと、わかってもらった。自分が理解出来ないということを、相手に、理解してもらうことは、大切である、それは、誤解を生まないために、是非、必要なことである。自分が相手の言う事を理解出来ないということを、相手に言う英語表現は、次のような例文がある。

Excuse me?/Pardon me?/Excuse me. Once more, please./Excuse me. I cannot understand what you say./Excuse me. I cannot follow you./Could you repeat it?/Would you say it again?/Sorry. I cannot understand./I don't understand what you're saying./Would you mind saying that again?/Would you mind repeating that?/I beg your pardon?/I don't understand you./I don't get it.<sup>(7)</sup>/I don't get you.<sup>(8)</sup>/I don't get what you mean.<sup>(9)</sup>/Will you please say it again?<sup>(10)</sup>  
((7), (8), (9), (10)以外は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使用し、修正し、あるいは、倣った。)

Excuse me?も Pardon me?も I beg your pardon?も、いずれも「すみません?」とい

う意味である。「すみませんが、もう一度言ってください。」と、いうことを、意味する極めて簡潔に自分の気持ちを表わす表現である。I don't understand you.の場合、「私はあなたの言うことが理解できません。」という意味である。I don't get it.の場合、「私はそれが理解できません。」の意味であり、get は「理解する」、すなわち、understand と同じ意味である。Get it? と言えば、Did you get it?, すなわち、「あなたはそれを理解出来ましたか。」の意味である。この get は口語表現といえる。したがって、改まった場所、あるいは、論文などでは、こういう口語は使えない、というのが、一般的な考えである。

## 5

さて、次に、お金に関すること、について、述べよう。日本から現金だけを持って行くという人は、普通は、いないと思うが、一般的には、traveler's check<sup>(11)</sup>, credit card, cash, cash card が普通用いられている。それらの内のいずれかを、組み合わせて、持っていくのが、普通であろう。他の人といっしょに行くなら、まさかの時には、お金を貸してもらえようが、一人で行く時は、心細いものである。金がなくなったら、途方に暮れることになる。

まず、traveler's check (旅行者用小切手) のことについて述べよう。

Where is an exchange bureau?/Where can I exchange my traveler's check for cash?/Where is a bank?/Could you tell me where a bank is?/Where is the cashier?/I want to change a cheque.<sup>(12)</sup>/Can I change my traveler's check for cash in this hotel?/Could you change my Japanese yen for dollar?/Sure./All right./Of course./This hotel does not give you such a service./What type of traveller's cheque do you have, American Express or Visa?/No. You should go to Thomas Cook opposite this bank./What kind do you like?/What kind of cash do you like, 20? ((12)以外の例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使い、修正し、あるいは、做った。)

まず、Where is an exchange bureau?は「両替店はどこですか。」という意味である。一般的に、両替店は「旅行者用小切手を現地の現金ないしアメリカドルに替えてくれる店」である。が、そこでは「旅行者用小切手を日本円に替えてはくれない。」また、両替の際には、手数料を取るところと取らないところがある。また、店によって、rate

(換算率)は違うので、よく計算して、納得したうえで、頼むことである。また、たまには rate については、discount(割引)、ないし、こちらの、言うとおりに、変更してくれる所もあるので、思い切って、交渉してみるのもおもしろい。また、「手数料」は charge, 又は commission という。両替は銀行でもやってくれる。ただし、American Express (そういう名前の小切手)のみしか、替えてくれない所もある、そう言われたら、別の所を、探すしかない。もし、円建ての小切手であるのを、ドルの現金に替えてほしい、と云えば、ドルの現金に替えてくれる。What type of traveler's check do you have, American Express or Visa?については、旅行者用小切手はその発行しているところによって、American Express や Visa などといった、種類になっているが、「あなたは何の種類の旅行者用小切手を持っているのですか、アメリカン・エクスプレスですか、それともビサですか。」という意味である。また、Thomas Cook や American Express などといった、あちこちに、支店を持っている有名な、大きな両替店もある。What kind do you like?は、「どういう種類の現金がほしいのですか。」ということである。20ドル紙幣でほしいなら、20, please.と云うと、20ドル紙幣の現金で、くれる。10 dollars, please.と云えば、10ドル紙幣で、くれる。What kind of cash do you like, 20?は「どういう種類の現金がほしいですか、20ドル紙幣で、ほしいのですか。」という、意味である。

## 6

さて、次に乗り物についての表現を考察してみよう。まず、乗り物の名前だが、次のような例がある。

taxi/cab/car/automobile/bicycle/bike/motorcycle/subway/underground/  
streetcar/cable car/shuttle bus/trolley bus/ferryboat/tour bus/train/limou-  
sine/coach (例文は筆者。)

taxi は「タクシー」で、アメリカでは、どこでも、通じる。イギリスでも通じる。limousine はアメリカにはかなり走っている。6人程は乗れる大きな、立派なタクシーである。shuttle bus というのは、アメリカで、空港から、ホテルまで、行ってくれる小型のバスである。約8人乗れる。普通のバスより料金は高く、タクシーよりは安いものである。ただし、8人の客が乗っていると、8人がそれぞれ違う家、アパート、あるいは、ホテルに行く場合、8箇所をあちこちと、回るので、時間がかかる。streetcar



は「路面電車」である。サンフランシスコにはそれが走っていて、便利である。coach はイギリスの「長距離バス」のことである。アメリカでバスなどに乗る前には、かならず、小銭を用意しておくべきである。バス (bus) の場合、両替も出来ず、おつりも出ないので、ちょうどぴったりの料金を、持っていなければならない。また、タクシーの場合、旅行者用小切手は使えない時が多いので、現金を、持っていなければならない。

次に、乗り物に乗る時の英語表現、について述べよう。

fare/return ticket/bus stop/depot/railroad station/airport/domestic airlines/international airlines/schedule/timetable/destination/departure/flight/carrier/baggage/luggage/baggage claim/rest room/toilet/men's room/women's room/ticket/reserved seat/dining car/buffet/number 5 bus  
(例文は筆者。)

fare は「料金」であり、バス、タクシーなどのような、乗り物の料金はこの fare を使おうと、よい。bus stop が「バス停留所」である。これは、小さな停留所のことだが、depot というのは、「バスターミナル」、つまり、バスの大きな中央発着場のことをいう。terminal bus station というのが、ある辞書<sup>(13)</sup>に、載っており、terminal bus station でもよい。schedule 又は、timetable は「時刻表」である。London のある国鉄の駅の時刻表は departure (出発) 及び、arrival (到着) の二種類の時刻表が掲げてあったため、私は間違っ、arrival のほうを見ていて、危うく、出発する列車に乗り損ねるところであったことがある。baggage 又は luggage は「手荷物」の意味である。baggage claim は「手荷物一時預かり所」である。預かり証を大切に保管しておくことは、もちろんだが、やや、早めに、受け取りに行くとうよい。私は、Los Angeles の Union Station で出発の 10 分程前に受け取りに行ったら、係りのおじさんがいなくて、他の駅員さんから、「彼は近くにいるかもしれないので、机を、バーンと強くたたいてみなさい。」と言われたので、私はその通りにしたら、手荷物の係りのおじさんが奥から出てきた。たぶん、昼だったので、休んでいたのかもしれない。car は「自動車」の意味の他に、列車の「車両」の意味もある。したがって、dining car は「食堂車」である。

## 7

さて、次に、ホテルにおける、必要な英語会話表現について、論じてみたい。一般

的には、日本を出発する前にホテルの予約をしているのが普通だが、現地で、予約をする場合も含めての表現を次に例示してみよう。

Hello. I would like to stay in this hotel from March 16 to March 31./I have already made a reservation for a room at this hotel./I'd like to reserve a room at this hotel./I want to stay in this hotel for three days, from tonight to August 30./I will check out around 10 a.m. on the morning of December 30./Would you make any discount to me?/What is the charge for a single room at this hotel?/How much do you charge for a double room at this hotel?/How do you pay?/I'll pay by my traveler's check./I'll pay in cash./Receipt, please./Should I pay for any TV channel in my room?/Do you have any pay channel of TV in my room?/No, you don't pay. TV is free./What time can I have breakfast?/What time does the restaurant open tomorrow morning?/The restaurant opens at 7 in the morning and closes at 7 in the evening./Can I use a safety box?/Sir, can I have your security number? (例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使い、修正し、あるいは、做った。)

アメリカの場合、値引き (discount) を必ず、頼むべきである。ほとんどのホテルが割引をしてくれる。How do you pay?は、「あなたは、ホテルの宿泊代を、どんな方法で、支払いますか?」と receptionist (フロント係) が言っているのである。traveler's check か cash か credit card か、それとも銀行の checkbook (小切手帳) で支払うのか、または、日本円の現金で支払うのか、又さらに、traveler's check は何建てで、何という種類なのか、が問題になる。長く滞在する場合は、金額も数十万円となったりで、そのやりとりは、大切である。割引によっては、数万円得したりということも起こる。また、必ず、詳しく書いてある receipt (領収書) をその場で、書いてもらうべきである。旅行者が checkbook、つまり、旅行先の国の銀行発行の「小切手帳」で支払うのを認められない場合が多いようだ。アメリカの人々は、買い物、特に高額の買い物の場合、あるいは、公共料金の支払いは、checkbook (小切手帳) であるのが一般的である。しかし、我々旅行者が、銀行の小切手帳で支払いをしようとしても受け付けてはもらえないようだ。何度か、私も、そのような支払いを、頼んだが、すべて断られた。Sir, can I have your security number?は「お客様、あなたのセキュリティー・ナンバーを教えてください。」ということである。security number というのは、アメリカ人やアメリカで長期に滞在して働いている外国人のみが持っている、い

わば、「被雇用者番号」とでもいえるものである。旅行者はその番号は持たないのであるから、聞かれたら、「持ちません。」と答えればよい。

## 8

次に、食事の際の英語表現のことに移ろう。食事は、一日に3回毎日食べるのが普通であり、また旅に出た時には、その土地の食べ物を味わうのは旅の楽しみである。自分で料理する人も中にはいるが、大多数の人は、restaurantで食べる場合が多い。次はrestaurantでの対話表現の例である。

Hello. May I help you?/I'd like to have seafood./I prefer a beef sandwich./A cup of coffee, please./Can I have rice?/What kind of rice do you want?/I want white rice./I prefer fried rice./I'd like to have a jug of domestic beer./Plain water, please./What fish do you recommend me? (例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げている文献を、使い、修正し、あるいは、做った。)

restaurantでは、まず、waitressさん、又は、waiterさんが、席まで、案内してくれる。一般的に、案内してくれたその人があなたの専門の担当になり、他の人を呼んでも、来てくれない場合も多い。そうではない店もあるが、それは、その店その店によって違うので、行ってから、観察して、そこの店のやり方に、従うしかない。場合によっては、入り口で、席が空くまで待たされる時もあるが、空くまで待つか、待ちたくなければ、帰るしかない。rice(米)料理の場合、日本料理店の場合は、特に問題はないが、そこの現地風または、中国風など、どこ風のレストランか、にもよるが、米は日本のような「ご飯」はboiled rice又は、cooked riceである。steamed riceは中国料理店で時々出てきたり、インド料理店でもよく出てくる、いわゆる、ぱさぱさした「ご飯」である。fried riceは「焼き飯」である。white riceは「白米ご飯」、brown riceは「玄米ご飯」である。What fish do you recommend me?は「どんな魚料理をあなたはお勧めしますか?」と、店の人に、おいしいお勧めの魚料理を聞くのである。

## 9

次に、道の聞き方について述べよう。知らない土地、また、地形、町の成り立ち、など様々に違っている外国の道は解り難いことが多い。そういう時に、道を尋ねるこ

とになる。私の体験では、この、道を尋ねるといふ、日本においてならさほど困難でもないことが、外国では大変である。しかし、その大変さは、英語表現が上達するための苦勞と思えばよい。数多い表現の中から、その一部を例示してみよう。

Where is the State University?/Where is Fisherman's Wharf?/Could you tell me the way to Hotel Stanford?/Excuse me. How can I get to Washington Square?/Pardon me. How far is it from here to Union Station?/Which direction should I take to get to Japan Town?/Could you tell me which way I should take for the downtown?/It's down there./You are taking the wrong way. Please follow me./It's three blocks ahead./Go straight. And turn left on the next traffic lights./Cross here and turn right and go straight four blocks, then you can see the white building on your left./I don't know. I'm a traveller.  
(例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使い、修正し、あるいは、倣った。)

How can I get to Washington Square?は「どんな風にして私はワシントン広場に行くことができますか?」という意味であり、答えは、地理または、乗り物の乗り方を教えてもらえる、であろう。It's down there.は「そちらのほうです。」の意味である。You are taking the wrong way. Follow me.は「あなたは間違った道を辿っています。私に付いてきなさい。」、という意味である。It's three blocks ahead.は「それは3丁先です。」の意味である。Go straight.は「まっすぐ行きなさい。」の意味である。turn left (左に曲がりなさい。)は turn to the left と同じ意味であり、会話表現では turn right や turn left のように短く、言う場合が一般的である。道を聞かれることも、時々あるが、知っていれば、教えればよいが、知らない場合は I don't know. I'm a traveller.と言って、「解りません。私は旅行者なのです。」と告げるべきだ。

## 10

次に、電話のかけ方について、述べよう。電話のかけ方は、大変難しい。第一に、hotel の自分の部屋からかける時である。第二に、公衆電話からかける場合である。ホテルの自分の部屋からかけるのも、部屋から交換手を通さないで、すべてダイヤルで日本の自宅までかけることも出来る。それから、ホテル、または、電話局の交換手を通して、かけることもできる。公衆電話からかける場合は、すべてダイヤルのみでか

ける場合と、交換手呼び出し、その人に頼み、日本の自宅へ、つないでもらう場合とある。さらに、電話会社を選ぶ事もできて、複雑ではある。電話の対話は最も難しいが、基本は、解らないことを、yes といって、解った振りをしないこと、である。相手の身振り、手振り、表情が見えないので、耳で聞こえる音声のみによって判断しなければならないので、我々外国人にはとても難しい。自分で出来なければ、フロントの人に頼んで、代わりにかけてもらうことである。次に、それら電話での対話の例文の一部を示そう。

Hello. This is Ken speaking./Collect call, please./Person-to-person call, please./ATandT, please./Would you help me to call my Japanese home, please. The telephone number is 0000000000./Hang on, please.<sup>(14)</sup>/Hold on a minute, please./Hold the line, please.<sup>(15)</sup>/Who's speaking, please?/Please, speak loudly./Excuse me. I cannot hear you. Please, speak in a loud voice./I cannot understand. Please, repeat it./I cannot follow you. Please, speak slowly./You had a wrong number./Overseas call, please./Long-distance call, please./Mr. Kobayashi wants you./Morning call, please. Could you call me at 6 tomorrow morning? ((14), (15)以外の例文は筆者。ただし、主として、本論文の最後に掲げてある文献を使い、修正し、あるいは、倣った。)

ATandTというのは、アメリカの電話会社の一つである。ホテルや電話局の交換手さんに頼み電話をつないでもらおうとすると、2つほどの電話局の名前を挙げ、「どちらにしますか。」と言われるので、どちらかを選ぶ。Hang on, please.は「受話器をそのまま持っていてください。」という意味である。昔の電話は壁に、掛ける形であったので、それでhangを使い、「掛ける」という意味を出そうとしているのかと思ったが、そうではないらしい。Hold on a minute, please.の場合は、解り易い。holdは「受話器を握る」だから、hold onは「受話器を握ったままでいてください。」ということになる。You had a wrong number.は「あなたは、電話番号を間違っかけていますよ。」という意味である。Mr. Kobayashi wants you.は「小林さんからあなたにお電話ですよ。」という意味である。

り、実際には、もっと多岐にわたっての問題がある。たとえば、買い物をする際の表現や、チップを渡す時の表現、また、苦情を言う時のこと、それから、これは愉快的なことではないが、やむを得ず、喧嘩口論をする時の英語表現など、様々な場面で様々な英語表現上の問題があるが、この論考では、それらの中の、一部のみを論じてみた。

最後に、旅行英語表現上の諸問題について、結論を述べよう。外国人である我々が英語圏の国を旅行すると本当に英語の難しさを痛感するが、問題点を、簡潔にまとめてみよう。1. **yes と no をはっきりと言うこと。**日本人は曖昧な表現をするとよく言われるが、確かに、そういう傾向があるのは確かだと思う。それはある意味では美德であり、長所であるともいえるが、しかし、英語圏の国の人々は、yes か no かを言わない曖昧表現を、もどかしいと思ひ、しかも、誤解する恐れがある。たとえば、意見を持たないのではないかと、とか、優柔不断だ、とか、と思うのではなからうか。我々は、英語圏の国の人たちに接する時には、まず、yes か no をはっきり言うようにしたい。2. **感謝、謝り、挨拶、などの日常の普通の会話を、はっきりと、言葉に出していうべきだ。**Thank you.は簡単な表現なのではっきりと、言うべきである。挨拶については、知らない人同士で、アメリカでは挨拶することが多い。日本では、そういう習慣はないが、誰とでも、という必要はないだろうが、知らない人とでも挨拶するという心構えを持っていれば、かなりできるだろう。3. **英語を、話す場合に、知らない言葉、その言葉の意味が自分にとって不確かな言葉は、極力用いないこと。**間違ったり、場合によっては、逆の意味だったりすることもあるので、とにかく、自分が、はっきりと知っている言葉のみで、話すことである。4. **間違いを、恐れないこと。**英語を、外国人である我々が話すことは、間違いの連続だといってよい。間違いを恐れていたなら、一言も、話せない。たとえば、冠詞、a か an か the か、などは、迷うことが多い。そういうことに、こだわりすぎないで、たとえば、冠詞を、抜かすのである。変な、間違った英語だが、意味は通じている。会話表現の難しさは、急がなければいけない場合が多いということである。そういう時に、ゆっくり考えていると話せないし、また、相手や他の人に迷惑をかける場合すらある。外国での英語会話は、道行く人や、忙しく働いている人や、自分の後ろに10人もの人が並んでいてそれを気にしつつ、店員さんと話したり、交渉したりしなければならない場合も多い。下手な英語でも、さらには、相手に説明がうまくできなくても、必要な事は、話さなければならないのである。英語が、世界の共通語といってもいい今日、我々は、根気よく英語会話の表現がうまくなるように努力を続けるべきである。

注

1. 小西友七他編、『ジーニアス英和辞典』机上版，開拓社，1988年（以下同書は GENIUS の略語にて表す。），p. 796.
2. Ibid., p.1955.
3. Ibid., p.1913.
4. Ibid., p.830.
5. Ibid., p.910.
6. Ibid., p.1269.
7. 長谷川潔他編、『和英中辞典』（Comprehensive Japanese-English Dictionary），旺文社，1990年，（以下同書は COMPREHENSIVE の略語にて表す。），p.1737.
8. Ibid., p.1737.
9. Ibid., p.1737.
10. Ibid., p.1629.
11. 「旅行者用小切手」は traveler's check, traveller's cheque と，二つの表現ができる。A.S.Hornby (ed.), *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, Oxford University Press, Kaitakusha, Tokyo, 1977, p.938.
12. 新島通弘編、『英語表現活用辞典』，開拓社，1983年，p.66.
13. COMPREHENSIVE, p.1302.
14. GENIUS, p.771, 同辞書に hang on の意味として，「電話を切らずにおく」と載っている。
15. COMPREHENSIVE, p.1547.

参 考 文 献

日 本 語 文 献

1. 『言語』（月刊誌）（1986, Vol.15 No.9），大修館書店，1986年。中でも，田崎清忠氏の「アメリカ英語の匂い」（pp.22-30）及び堀内克明氏の「アメリカ英語の原動力」（pp.32-36）は現代口語英語を考える際に，新たな視点を与えてくれる。
2. 小西友七他編、『ジーニアス英和辞典』机上版，大修館，1988年。
3. 近藤いね子，高野フミ他編，『小学館プログレッシブ和英辞典』，小学館，1990年。
4. 長谷川潔他編，『旺文社和英中辞典』，旺文社，1990年。
5. 森喬伸，『英語を実用的に使う本』，KK ベストセラーズ，1982年。
6. 松田裕，『米語の衝撃—辞書の嘘—』，大修館書店，1978年。
7. おそどまさこ，『英会話100場面』，山と溪谷社，1993年。
8. 『小学館ランダムハウス英和大辞典』パーソナル版，小学館，1980年。

英 語 文 献

1. Hornby, A.S.(ed.), *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, Oxford University Press, Kaitakusha, Tokyo, 1977.
2. Kimizawa, Sumako, *Teaching English to Japanese*, (A Naptune Book), Tail Teather, Moab, Utah,

1977.

3. Postman, Neil, *Language and Reality*, Holt, Rinehart and Winston, Inc., New York, Toronto, London, 1966.

4. *The Random House Dictionary of the English Language*, The Unabridged Edition, Random House, New York, 1966.

### Summary

#### **English Expressions for Foreign Travels: Especially When the Japanese People Travel in English-speaking Countries**

**Noboru Tateyama**

There are many problems when we consider 'English Expressions for Foreign Travels'. In this thesis I describe various English expressions which are used when the Japanese people travel in English speaking countries. I refer to various English expressions which are used when the Japanese travelers enter the gates for the airplanes and they talk with the crew and other passengers in their airplanes.

After the Japanese travelers arrive at their destinations, they need to talk with the receptionists in their hotels and they encounter many problems of the English expressions in the stores, the rest rooms, the restaurants, and on the streets and etc.. And they should ask someone the way on the streets and they ask someone to help them to call their family members living in Japan. And they have the problems when they try to take some transportations in cities and towns. I consider, in this thesis, various English expressions which are often used in many situations in English-speaking countries.

As the conclusion of this thesis, I describe four items: 1. The Japanese travelers should say 'yes' or 'no' clearly. 2. The Japanese travelers should express their gratitude, and send greetings clearly. 3. When the Japanese people speak in English with the native English-speaking people, the former should not use unfamiliar words and expressions. 4. The Japanese travelers should not be afraid of making mistakes when they speak in English. The English language is today an international language, therefore, the Japanese people should try to improve their English in order to communicate smoothly with the English-speaking people.